2008.9月「月刊奄美」

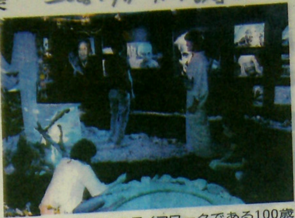
奄美の多様な世界を独自の作品で表現

「ヌチ」をテーマに

山中順子展

東京

奄美の長寿者などを撮り続けている横浜在住の写真家山中順子さん（三八）の個展「生命（マブライ）　ヌチ　ドゥ　タカラ（命こそ宝）」が七月十九日から八月三十一日まで東京で開かれた。写真や詩、絵、音、食など独自の作品で構成された空間で音楽家や学者、俳優など著名人たちとの演奏やトークが繰り広げられた。


山中さん（中央）のライフワークである100歳の写真も多数展示された

会場は文京区の東京大学前のギャラリー。入口には、奄美大島南部地域にわずかに残るヒンプン（魔除けの屏風）をかたどった空洞のガジュマルを配置。観客はその中を通ってギャラリーに入る仕組み。

奄美の月明かりをイメージした透明な青い光が差し込む場内には、奄美群島の長寿者や巨木、伝統行事などの写真を配置。新たに撮影した映像や写真をプロジェクターで上映した。床には奄美の白砂やサンゴのかけら、草木が敷き詰められ、シマの聖地も。黒糖や焼酎、キビ酢など

展示された。

三部構成で
期間の前半は
自然を中心に
した「千瀬の
ガジュマル」、
続いてシマの
伝統文化に触
れる「シマ、ワ
タシ」、終盤は

東大の石田さん
時間も用意され

や子供たちを招いて自然に学ぶ
た

特産品も
食や長寿を表現する「ヌ
チ、百歳」。奄美の自然と

会場入り口には「ヒンプンガジュマル」が作られ、観客はその中を通って場内に入る仕組み

文化で構成した空間では奄美大島の森林生態系などを研究している石田健東大准教授や俳優の榎木孝明さん、小川ちひろさんらと山中さんのトーク、音楽家たちの演奏など多彩なイベントが繰り広げられ、多くの観客に感動を与えた。

山中さんは「奄美の温かいウムイ（想い）やまぶしく光る人生とヌチ（生命）、そして手触りの記憶を表現してみました。奄美には私たちの未来にとってかけがえのないもの、普遍的なものが潜んでいるような気がします。その〝潜み〟を私なりに表現していきたい。まだ、始まったばかりです。奄美を表現することは奄美の域を超え、さらに時代をも超えていくように思います。今回もまた、奄美の方々をはじめ、たくさんの人々の心の手が合わさってこのようなイベントができました。心から感謝しています」と話している。

田中一村をモデルにした映画で主演した俳優の榎木孝明さんらと山中さんのトーク

奄美から取り寄せたサンゴと白砂でかたどった土俵の近くで自然について学ぶ子供たち

アダンやサンゴなどで構成された透明な青い空間のギャラリー